

《十一月二十三日》

咲き残りあるむらさきの庭の花に声か
けて出づ 「今日は奈良までね」

今日は昼前の飛行機で伊丹空港へ。そのあと空港バスで近鉄奈良駅へ。「奈良大学短歌会」主催の「現代短歌を考える会」に出席するためである。一般市民も多く参加する。産婦人科専門医で奈良大学教授の島本太香子さんが世話役だ。このところ言えにいたることが少ない。体調に気をつけなければと思う。

《十一月二十五日》

奈良に生きる若きの歌にあたらしきい
にしへのこゑ聞かむとしたり

奈良大学短歌会の学生の作品にあらためて目を通している。「空の青紅葉の
赤に稲穂の金 色戯れるわたくしの秋 中里葵」「虹をみたそんな些細な
出来事が前向きに生きるきっかけになる 朝田智春」「古都奈良で修復学
ぶこの手から小さな歴史を蘇らせたい 肥田美咲」「サクラサク奈良の暁
本にさす此は古いにしえの輝きなるか 小江陽南子」など。当日のすがすが
しい学生の印象が蘇る。